

第 4 回

姫路市経済振興ビジョン検討懇話会

委員報告・事務局資料＜イントロダクション＞

令和 8 年（2026 年）7 月 3 日（金）

姫路市 観光経済局 商工労働部 産業振興課

「地場企業の現状紹介」について、二委員へ報告を依頼。
事務局からも地場産業組合へのヒアリング結果を共有。

第4回検討懇話会 委員報告 「地場企業の現状紹介」

事務局 イントロ

- 経済振興ビジョン改定に先立ち地場産業の複数の組合へヒアリングを行った結果を共有

玉田委員

- 起業プラザひょうご姫路の運営を通して、創業・スタートアップを支援
- “はりまオープンファクトリー市播-ichiban-”のコアメンバーとして、播磨地域の製造業の魅力発信にもご尽力

藤谷委員

- 地域に根差した金融機関として、中小企業の金融支援に日々ご尽力
- 事業の立ち上げからその後の経営の伴走まで、幅広い事業支援

委員報告に先立ち、姫路市が組合へヒアリングを行った結果を共有。
産業全体での発展を基に、技術を含めた事業承継へのサポートや製品の質で勝負できる土壌の整備を期待する意見が見られた。

組合ヒアリング 意見概要

10年後 について (BC)

- 人口増は産業の発展がなければ成し得ない。調整区域の見直しによる産業誘致も一つの手。
- 国より海外展開を勧められている。製品化して東南アジア、欧州で展開したい。
- 海外展開を行うにしてもまずは足元の国内需要を今よりも高める必要がある。
- 安価な類似製品や代替素材が開発されており、規格規制により質を担保していく取組みも重要である。
- 跡を継ぎたいと思わせる魅力的な店づくりには、安心安全なまちであることが大前提。

事業承継

- 事業承継がスムーズにいくような支援があると嬉しい。
- 大企業と一緒に仕事をすると若者が興味をもってくれる。事業承継の入り口にもなり得る。
- マッチングが成立すると良い影響が波及する、Win-Winな関係性を構築していきたい。
- 職人の技術は一朝一夕には身につかず、WLBと相性が悪い部分がある。そのギャップを解消したいが、良い手法は思いつかない。

その他

- 製造会社数は全盛期の2割まで落ち込んでいる。業界全体が衰退すると国内での原料の調達が困難になり、輸入に頼らざる得なくなるが、昨今の円安基調だと採算を取るのが非常に困難となる見通し。
- 加工素材の製造においては、問屋を介した取引が中心であり、自らの販売ルートを持っていない。独自の販路を構築できれば、とも思うが、問屋との関係性もあり慎重にならざるを得ない。
- 行政には個社支援でなく業界支援によるボトムアップを期待。